

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して

~TANKYU~

谷地南部小学校
校内研究だより
2022. 6. 24
No.8 文責 荒木秀

第5学年 国語 プレゼンしよう 「提案しよう、言葉とわたしたち」

5年 授業研究会 成果と課題

視点1「実生活につながる課題の設定」

- 誰かのために考える、というのがよかった。
- 住んでいる地域の返礼品というテーマがよい。→実際に取り入れられるかも・・・。
- 総合との関わり→教科横断型学習・カリキュラムマネジメント
- △対象が見えると、もっと具体的に考えることができたのでは。
- △CMの言葉、キャッチコピー的なものと、三角ロジックがわかりやすい？
- △自分たちの「想い」と、根拠・理由付けがうまく繋がらなかった。

視点2「グループによる課題解決の場の設定」

- ロイロノートで思考が結びついていた。
- ロイロノートの共有ノートを使った資料の作成。
→効率的に資料を整えるために、役割分担をしたり進捗を確認したりできた。
- △根拠と理由づけの違いをどう捉えさせるか。一人ひとり（班ごと）の活動でも、根拠と理由がごちゃごちゃになっていた人がいた。



その他「単元の見通し」

- ゴールの姿を子どもと一緒に考えて、明確にすることができた。時間も提示。
- ほかの教科とのつながり・・・三角ロジックが使える。
- 昨年度から総合で取り組んでいる「ふるさと納税・返礼品」
→ゴールの活動・児童の姿から、評価基準を児童と一緒に確認し作り上げる。

【校長先生からのご指導から】

- 実生活につながる課題だった。目的意識「ノベルティ制作・松田さんに提案～採用してもらいたい」相手意識「誰が手にするか→大人 ターゲットを絞ることでの深まり」
- 単元の初めは、ポイントをおさえる。学習の流れ→目標（めあて）何ができればよいか→評価も確認していた。三角ロジックの確認→特に根拠と理由は迷うところ